

## 1 はじめに

本校は昭和57年に茂原市立南中学校より分離して開校した。学区は、旧来からの純朴な農村地域の中に、住宅団地が造成されているが、近年は大規模な住宅地造成は行われておらず、落ち着いた郷土となっている。

生徒数は減少の一途をたどっており、全校生徒数130名、学級数8（特別支援2学級を含む）の小規模校である。素直で明るい生徒が多く、学校行事や部活動に積極的に取り組む生徒が多い。一方で個別に支援を要する生徒もおり、一人ひとりのニーズに応じた支援が求められている。

また、一小一中ということから、茂原市立五郷小学校との小中連携教育にも着手しており、相互授業参観や新入生の中学校授業体験など様々な教育実践を行っている。さらに令和8年度には、茂原市立南中学校との統合を控えており、オンライン交流や部活動交流、校外学習の行程の統一などスムーズな統合に向けての実践を予定している。

## 2 授業実践にあたって

### (1) がんについて

がんは1981年から日本人の死因第1位となっており、現在は年間約37万人ががんで亡くなっている。また、2人に1人（男性65.5%、女性50.2%）は一生のうちに何らかのがんにかかるかと推計されている。主な罹患要因は生活習慣によるものとされているが、遺伝が関与しているものや原因不明なものもあり、予防や治療の方法などの研究が進められている。

### (2) がん教育の目標

#### ア がんについて正しく理解することができるようにする

がんは身近な病気であるが、早期に発見し、適切に治療をすれば治らない病気ではないということを理解し、正しい知識を身につけ、健康の保持増進に努められるようにする。

#### イ 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

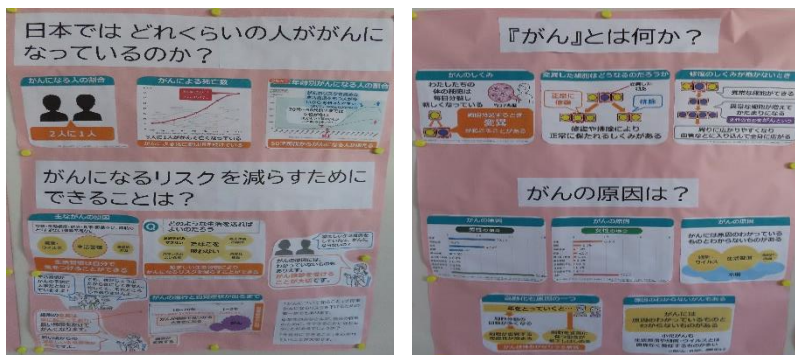
がんという病気を通して、患者だけでなく、関わる人や社会全体が自他の健康と命の大切さに気づき、自己の在り方や生き方を考え、互いに支え合い、ともに生き、「生活の質」を大切にしようとする態度を育成する。

### (3) がん教育指導方針

#### ア 保健体育科保健分野3時間

第1時は、生活習慣病の起こり方について学習し、不適切な生活習慣が引き起こすリスクについて取り上げる。また、「いきいきちばっ子生活習慣チェック表」を使用し、自身の生活習

慣との比較から継続すべき習慣と改善すべき習慣を明らかにする。第2時は、「がん教育プログラムの補助教材」のモジュール1～3を活用し、がんのメカニズムについて学習し、知識を身につける。第3時はモジュール4・5を活用し、がんの予防と検診の重要性について、知識の提示だけでなく、生徒自身に考えさせるように授業を展開する。



#### イ 道徳科 1 時間

学年道徳として、「命の尊さ」や「がんとの関わり方」について取り上げる。生徒と年齢の近い小児がん患者の動画を視聴し、自分自身や身近な人が罹患してしまったときの、がんとの向き合い方や患者との接し方について考える。また、ブレインストーミングを活用し、全員の考えを共有できるように授業を展開する。



#### ウ 保健体育科保健分野 1 時間 (外部講師を活用した授業)

基本的な知識を習得した上で外部講師の医師からがんの治療法選択する際の留意点、がん患者に対する支援について、臨床の視点から講演していただく。また、本時を通して授業前と授業後のがんに対する考え方の変遷を捉え、生徒のこれからの生活の糧となるように授業を展開する。



## 第2学年1・2組 保健体育科学習指導案

令和5年11月 8日(水)

授業者 伊藤 悠輝

講師 宍倉病院

宍倉 朋胤

1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」 (ウ)生活習慣病などの予防

2 単元について

(1) 単元観

昨今の新型コロナウイルス感染症の流行をはじめとした社会情勢や生活様式の変遷に伴い、生徒を取り巻く環境が大きく変化している。学習指導要領解説保健体育編に記されている保健体育科の目標にあるように、生涯にわたって心身の健康を保持増進するためには、学校においても保健体育科にとどまらず、特別活動や特別の教科道徳等も含め、学校教育全体を通じて「健康教育」として位置付けたうえで推進していく必要がある。

現在、日本人の死因第1位となっているのは「がん」である。さらには「がんと共に生きる時代」と言われるほどに身近な病気で、2人に1人は患い、3人に1人はがんで亡くなっているという統計がある。このような現状を受けて、文部科学省は「学校におけるがん教育の在り方について」報告書において、学校における「がん教育」の目標を次のように示した。

- ①がんについて正しく理解することができるようにする
- ②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

また、学習指導要領においては、「がんの予防」について取り扱うことが明記され、次のように示している。

### ①がんの予防

がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることが有効であることを理解できるようにする。

上記のように、「がん」について学ぶことや「がん」を予防するための自己の在り方や生き方を考え、実践する姿勢や態度を育成できる単元である。

(2) 生徒の実態 (2学年 2学級：男子30名 女子16名 計46名)

本校2学年の生徒は全体的に明るく活発であり、保健体育科の授業においても意欲的に取り組む生徒が多い。特に男子生徒は、発問に対する反応や課題解決に向けた活動の際に意見や自身の考えを積極的に伝える生徒が多い。女子生徒は自分の考えをしっかりともち、その考えをまとめる力に長けた生徒が多い。個々で問題に向き合ったり、グループ活動で互いの考えを共有させたりする

ことで、自身の考えを他者に伝えることができる。以下は事前アンケートの結果であり、そこからがんに対する実態を考察する。

ア がんに対するイメージ

調査日 令和5年9月12日 調査生徒数 44名

項目	そう思う	やや思う	やや思わない	思わない
a 「がん」は怖い病気だと思う。	41(93%)	2(4.7%)	0(0%)	1(2.3%)
b あなたの「がん」に対する印象を自由に記述しなさい。				
いつなっているかわからないから怖い	いつの間にか体の中にできているもの			
おじいちゃんのがんで亡くなったから怖い	かかると死んでしまうかもしれない怖い病気			
がんは簡単には治らなそう	たばこを吸っている人になる病気			
一度かかったら治すのが難しい	今までの生活ができなくなる			
何のがんがあるかわからないから怖い	治療が難しく、簡単には治らない			
死に至る可能性が高い病気	薬の副作用で髪が抜ける			
早く見つからないと命を落としてしまう	簡単ではないが治すことができる病気			

イ がんに対する認識の正誤について

項目	正しい	誤り
a 「がん」は誰もがかかる可能性のある病気である。	40(93%)	3(7%)
b 「がん」は進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	42(97.7%)	1(2.3%)
c 「がん」は日本人の死因第2位である。	26(60.5%)	17(39.5%)
d たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって「がん」を予防することができる。	40(93%)	4(7%)
e 早期発見した方が「がん」は治りやすい。	42(97.7%)	1(2.3%)
f 体の調子が良い場合は、定期的な検診を受けなくても良い。	2(4.7%)	41(95.3%)
g 「がん」の治療法には手術治療しかない。	16(37.2%)	27(62.8%)
h 「がん」の痛みは我慢するしかない。	8(18.6%)	35(81.4%)

ウ がんと自分自身について

項目	そう思う	やや思う	やや思わない	思わない
a 自分は「がん」にならないと思う。	1(2.4%)	8(19%)	18(42.9%)	15(35.7%)
b 将来たばこを吸わないでいようと思う。	34(79.1%)	6(14%)	1(2.3%)	2(4.7%)
c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりをすることは、「がん」の予防になると思う。	32(74.4%)	11(25.6%)	0(0%)	0(0%)
d たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって「がん」を予防することがある。	21(48.8%)	18(41.9%)	3(7%)	1(2.3%)
e 「がん」の治療方法はいくつがあるが、医師と相談して決めるものである。	31(72.1%)	11(25.6%)	0(0%)	1(2.3%)
f 「がん」になっても生活の質を保つ工夫がある。	12(27.9%)	23(53.5%)	8(18.6%)	1(2.3%)
g 「がん」になっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	23(53.5%)	20(46.5%)	0(0%)	0(0%)
h 「がん」と健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	14(32.6%)	21(48.8%)	8(18.6%)	0(0%)
i 誰もが健康であってほしいと思う。	35(81.4%)	8(18.6%)	1(2.3%)	1(2.3%)
j 健康で長生きするために、体づくりや良い生活習慣に取り組もうと思う。	26(60.5%)	17(39.5%)	1(2.3%)	0(0%)

エ がんの学習について

項目	そう思う	やや思う	やや思わない	思わない
a がんの学習は、誰もが健康的な生活を送るために重要だと思う。	34(79.1%)	9(20.9%)	0(0%)	0(0%)
b がんの学習は、自分が健康な生活を送るために役に立つと思う。	34(79.1%)	9(20.9%)	0(0%)	0(0%)

上記のアンケート結果より、「がん」に対するイメージとしては、「怖い」「罹患に気づきにくい」「治療が難しい」などネガティブな回答が多い一方、「容易ではないが治療できる」というポジティブな回答が一部見られた。また「がん」に関する知識としては、正誤を問う質問に対し、多くの正しい回答がみられた。しかし、「がんは日本人の死因第2位である」や「がんの治療法には手術治療しかない。」という質問に対しては、正誤の割合が6：4程だったことから、日本の現状や治療法については、約半数の生徒が誤った認識をもっている。このことからこの学習を経て、「がん」に関する

正しい知識を身につけることはもちろんのこと、日本の現状から今後、自身たちがどのような生活をし、身近な「がん」とどのように向き合っていくのかを真剣に考える機会とさせる必要があると考察する。

### (3) 指導観

「がん」という病気が日本では死亡要因の第1位であり、現在2人に1人が罹患するという統計データから、誰もがかかる可能性のある病気であることを理解させる。そのうえで、自身の生活習慣を振り返るとともに、今後の運動・食生活・睡眠休養等の生活習慣の改善を図ることで「がん」の発症リスクを軽減できることに気付かせたい。また「がん」の治療方法や支援について学ぶことで、自身だけではなく、家族や親戚、友人など身の回りの大切な人のために自分ができることは何かを考えさせるなど、主体的な姿勢で授業に臨むよう指導していく。

## 3 単元の目標

- (1) 「がん」をはじめとする生活習慣病の原因や予防について正しく理解し、望ましい生活習慣の形成に生かすことができる。 【知識及び技能】
- (2) 「がん」をはじめとする生活習慣病の予防について課題解決を目指し、科学的根拠に基づいた方法を選択し、それらを伝え合うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 「がん」をはじめとする生活習慣病の予防について、健康の保持増進や予防についての学習に自主的に取り組むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

## 4 評価規準

### 【内容のまとめりごとの評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・個人生活における健康・安全（健康な生活と疾病の予防）について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	・健康な生活と疾病の予防について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決に向けて科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	・健康な生活と疾病の予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

### 【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを	・生活習慣病及びがんの予防について、習得した知識を自他の生活と比較したり、活用したりして、疾病等にかかるリスクを	・生活習慣病やがんの予防法について関心をもち、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。

理解している。 ・がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解している。	軽減し健康の保持増進をする方法を選択するとともに、それらを伝え合っている。	
--	---------------------------------------	--

## 5 授業展開及び指導・評価計画

(知：知識・技能 思：思考・表現・判断 態：主体的に学習に取り組む態度)

時	学習のねらい及び主な学習活動	知	思	態	評価方法
一・生活習慣病の起こり方	<p>【生活習慣病について】</p> <p>〈ねらい〉 生活習慣病について症例や原因などの理解ができる</p> <p>〈学習活動〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の学習内容とねらい確認</li> <li>2. 「いきいきちばっ子生活習慣チェック表」を活用し、自分の生活習慣を振り返る</li> <li>3. チェック表の結果から気づいたことを共有する</li> <li>4. 様々な生活習慣病とその主な原因について調べ、整理する</li> </ol>	①			<p>知①（観察・ワークシート）</p> <p>生活習慣病は不適切な生活習慣が要因となって起こる疾病であり、若年からの不適切な生活習慣がリスクを高めることを理解している。</p>
二・がんについての正しい理解	<p>【がんについての理解】</p> <p>〈ねらい〉 がんのメカニズムについて理解ができる。</p> <p>〈学習内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前アンケート結果の確認と本時の学習内容とねらい確認</li> <li>2. がんという病気について（モジュール1）</li> <li>3. 日本のがんの現状（モジュール2）</li> <li>4. がんの発生と進行（モジュール3）</li> </ol>	①			<p>知①（観察・ワークシート）</p> <p>がんに関する基礎知識や日本における状況、がんの発生から進行について理解している。</p>

<p>三・がんの予防と検診</p>	<p><b>【がんの予防】</b>        〈ねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○がんの予防について理解を深め、自分がこれからできることを考え、説明したり、伝え合ったりすることができる。</li> <li>○検診の有用性と日本の受診率を知り、自分がこれからできることを考えることができる。</li> </ul> <p>〈学習内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前時の復習と本時の学習内容とねらいの確認</li> <li>2. がんにならないために自分ができることを知る (モジュール4)</li> <li>3. 大切な人ががんにならないためのメッセージを考える</li> <li>4. がん検診の有用性と日本の受診率の現状を知る (モジュール5)</li> <li>5. 大切な人ががん検診をすすめるメッセージを考える</li> </ol>		<p>①</p>	<p>①</p>	<p>思① (観察・ワークシート)</p> <p>がんの予防には、自分の生活習慣が密接に関わっていることを知るとともに、今後の自分の生活行動に生かす方法を考え、伝え合っている。</p> <p>態① (観察・ワークシート)</p> <p>がんの予防の大切さに気づき、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。</p>
-------------------	--	--	----------	----------	---



<p>四・がん治療や支援方法について（本時）</p>	<p>【がんの治療方法と支援】        〈ねらい〉        ○がんの治療法を理解し、自分で納得して選択することの大切さについて理解することができる。        ○がん治療に必要な支援について知り、治療だけが支援ではないことを理解するとともに、将来の自分の生活に結び付けて考えることができる。        〈学習内容〉        1. がんの治療方法について知る。        2. 治療法は自身で納得した上で選択すること、そのために十分な説明を受け、理解することが大切であることに気付く。        3. がん治療に必要な支援と考え方について知る。        4. 自分の身内や友人、それらの周りにがんになった人がいる場合、どのようなことができるかを考える。</p>	<p>①</p>	<p>①</p>	<p>知①（観察・ワークシート）        がんの治療法を理解したうえで、自身の意思で主体的に選択することの重要性を理解している。         思①（観察・ワークシート）        がん治療の支援には、様々な方法があることや、支援の対象や開始するタイミングについて理解し、将来の自分の生活に結び付けて考え、それらを説明したり伝え合ったりしている。</p>
----------------------------	---	----------	----------	---

## 6 研究主題との関連

主体的に学んで確かな学力を身につけ、自己の思い描く未来の実現をめざす生徒の育成

本校では、千葉県「次世代へ光り輝く『教育立県ちば』プラン」及び茂原市教育施策を受け、「未来を主体的に生きる人づくり」のテーマのもと、「主体的に学んで確かな学力を身につけ、自己の思い描く未来の実現をめざす生徒を育てるための指導法を明らかにする」という研究目標を立てている。具体的な方策として、教材の工夫やICTの活用などを通して、多様な授業展開を設定し、学習の広がりや深まりを見込むことができると考えられる。また、授業における学習課題や発問、提示する資料等を生徒の日常生活や地域の実情と関連付けることにより、興味関心を引き、学習意欲を向上させる。さらに自身のライフスタイルを振り返ることや将来のビジョン構築の足掛かりとすることのきっかけを与えることで研究主題にせまりたいと考える。

7 本時の指導（4 / 4） 場所：体育館

(1) 目標

・がんの治療法を理解したうえで、自身の意思で主体的に選択することの重要性を理解することができる。 【知識及び技能】

・がん治療の支援には、様々な方法があることや支援の対象や開始するタイミングについて理解し、将来の自分の生活に結び付けて考え、それらを説明したり伝え合ったりすることができる。

【思考力、表現力、判断力等】

(2) 展開

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○)、評価 (☆)	用具・資料
はじめ	4分 (一斉)	1 外部講師の紹介及び本時の学習の確認 ・事前アンケートの結果を引用しながら、がんの治療法や支援方法について発問をする。	○外部講師を紹介し、学習への興味関心を高める。 ○既習事項から予想されることを発言させる。	PC プロジェクター マイク
		がんの治療法にはどのような種類があり、どのように決定するのだろうか。 がんの治療にはどのような立場・視点から支援が必要だろうか		
なか	10分 (一斉)	2 外部講師の講話から、がんの治療法について理解を深める。 【講話の内容】 ・がんの治療法について ⇒手術療法・放射線療法・化学療法 ・がんの種類や状態、段階によって選択する ・治療法の選択は、医師等と相談しながら主体的に選択することが大切であるということ ・別の医師の意見を聞いてもよいこと ⇒セカンドオピニオン ・治療法を決定する際に十分な説明を受け、理解した上でどのような治療を受けるか選択することが大切であるということ	○外部講師の講話をしっかりと聞かせ、がんの治療で大切なことを理解させる。  ○必要に応じてワークシートにメモをとるように声かけをする。	PC プロジェクター マイク ワークシート          ワークシート マイク

	<p>8分 (グループ)</p> <p>10分 (一斉)</p> <p>8分 (グループ)</p>	<p>3 講話を聞いて、がんの治療法について疑問に思ったことやより深く聞きたいことをグループで話し合い、質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各治療法のメリットとデメリットは何なのか。</li> <li>・患者が子どもの場合の意思決定はどうするのか。</li> </ul> <p>4 外部講師の講話から、がん患者への支援について理解を深める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【講話の内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者の体と心の状態について <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒痛み、吐き気、精神的苦痛</li> </ul> </li> <li>・支援の対象について <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒患者本人、家族、友人</li> </ul> </li> <li>・支援をする人について <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒医師・看護師・薬剤師 カウンセラー ソーシャルワーカー</li> </ul> </li> </ul> </div> <p>5 講話を聞いて、がんの支援について疑問に思ったことやより深く聞きたいことをグループで話し合い、質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に家族がいない場合はどうしたらよいのか。</li> <li>・患者の家族が日常生活で困ることとは何か。</li> </ul>	<p>☆がんの治療法を理解したうえで、自身の意思で主体的に選択することの重要性を理解することができる。 <b>【知識・技能】</b> (観察・ワークシート)</p> <p>○外部講師の講話をしっかりと聞かせ、がん患者への支援で何が大切なのかをポイントに聞きとらせる。</p> <p>○必要に応じてワークシートにメモをとるように声かけをする。</p> <p>☆がん治療の支援には、様々な方法があることや、支援の対象や開始するタイミングについて理解し、将来の自分の生活に結び付けて考え、それらを説明したり伝え合ったりすることができる。 <b>【思考・表現・判断】</b> (観察・ワークシート)</p>	<p>PC プロジェクター マイク ワークシート</p> <p>ワークシート マイク</p>
<p>まとめ</p>	<p>10分 (一斉)</p>	<p>6 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講話の感想を記入し、発表する。</li> <li>・代表生徒より、謝辞及び講話を聞いての感想を発表する。</li> <li>・外部講師から中学生へ向けてお話していただく。</li> </ul>	<p>○謝辞担当の生徒や発表者へのマイク準備</p> <p>○講話を聞いて、がんに対する考え方の変化を事前アンケート結果を提示した上で比較させ、記述させる。</p>	<p>PC プロジェクター マイク ワークシート</p>

### 3 成果と課題

#### (1) 事後アンケート

ア がんに対するイメージ

調査日 令和5年11月10日 調査生徒数 43名(1名欠席)

項目	そう思う	やや思う	やや思わない	思わない
a 「がん」は怖い病気だと思う。	38(88.4%)	5(11.6%)	0(0%)	0(0%)
b あなたの「がん」に対する印象を自由に記述しなさい。				
とても怖いという印象は変わらないが、早期発見・早期治療によって治ることを知れてよかった	早期発見できれば治療できるけど、見つからなかったら怖いから検診を受けたい			
誰しもがなる可能性がある病気	痛みの少ない治療がある			
患者の周りの人が支える必要がある	様々な方面から支援を受けることができる			
日頃の生活習慣が大切で特に私たちのように若い時から気をつけた方がいい	がんの場所や進行度によって症状はもちろん、治療法も変わる			
がんになっても明るい生き方ができる	治療法の研究はどんどん進んでいる			

イ がんに対する認識の正誤について

項目	正しい	誤り
a 「がん」は誰もがかかる可能性のある病気である。	43(100%)	0(0%)
b 「がん」は進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	42(97.7%)	1(2.3%)
c 「がん」は日本人の死因第2位である。	0(0%)	43(100%)
d たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって「がん」を予防することができる。	43(100%)	0(0%)
e 早期発見した方が「がん」は治りやすい。	43(100%)	0(0%)
f 体の調子が良い場合は、定期的な検診を受けなくても良い。	2(4.7%)	41(95.3%)
g 「がん」の治療法には手術治療しかない。	0(0%)	43(100%)
H 「がん」の痛みは我慢するしかない。	1(2.3%)	42(97.7%)

ウ がんと自分自身について

項目	そう思う	やや思う	やや思わない	思わない
a 自分は「がん」にならないと思う。	0(0%)	2(4.7%)	9(20.9%)	32(74.4%)
b 将来たばこを吸わないでいようと思う。	39(90.7%)	4(9.3%)	0(0%)	0(0%)
c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりをすることは、「がん」の予防になると思う。	42(97.7%)	1(2.3%)	0(0%)	0(0%)
d たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって「がん」を予防することがある。	43(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
e 「がん」の治療方法はいくつがあるが、医師と相談して決めるものである。	40(93%)	3(7%)	0(0%)	(%)
f 「がん」になっても生活の質を保つ工夫がある。	21(48.8%)	19(44.2%)	3(%)	0(0%)
g 「がん」になっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	34(79.1%)	9(20.9%)	0(0%)	0(0%)
h 「がん」と健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	26(60.5%)	16(37.2%)	2(4.7%)	0(0%)
i 誰もが健康であってほしいと思う。	40(93%)	3(7%)	0(0%)	0(0%)
j 健康で長生きするために、体づくりや良い生活習慣に取り組もうと思う。	36(83.7%)	7(16.3%)	0(0%)	0(0%)

エ がんの学習について

項目	そう思う	やや思う	やや思わない	思わない
a がんの学習は、誰もが健康的な生活を送るために重要だと思う。	39(90.7%)	4(9.3%)	0(0%)	0(0%)
b がんの学習は、自分が健康な生活を送るために役に立つと思う。	39(90.7%)	4(9.3%)	0(0%)	0(0%)

(2) 成果

がん教育の事前事後にアンケートを実施したところ、「がんに対するイメージ」や「がんに対する認識の正誤」、「がんと自分自身について」、「がんの学習について」など22項目ほぼ全ての質問において、事前事後で向上的な変化が見られ、正しい知識や望ましい考え方・捉え方が身についたと考えられる。特に著しかったのは、がんの治療法について正誤を問う質問への回答で、外部講師の話の中で3種

類の治療法について詳細な説明があったことと、生徒から外部講師への多様な質問とそれに対する適切な回答があった結果であると考えられる。

また、がん教育を受けた後の「がん」に対する印象を問う記述式の質問（ア-b）への回答として、早期治療・早期発見の利点及び検診の重要性に関する回答が多数見受けられたことや「がん」に対する認識の正誤を問う選択式の質問（イ-e、イ-g）からも外部講師を活用した授業は生徒たちへ大きな影響を与えたと言えるだろう。

### （3）課題

がん教育の事前事後アンケートでは、ほぼ全ての項目において向上的な変化が見られた中で、「がん」になっても生活の質を保つ工夫があるという質問（ウ-f）に対しては、選択肢内の若干の変化はあったものの、大きな変化は認められなかった。これは今回実施した一連のがん教育の実践において、がん患者の“生活の質”や生き方、がん患者との共生社会について具体的に触れる時間を計画していなかったためだと考えられる。今後は「がん」を罹患しながらも充実した社会生活を送っている患者の体験等を授業で扱っていく必要がある。

外部講師との連携や調整に改善の余地があるように感じる。今回、お互いの都合が合わず、対面での直接的な打ち合わせを行うことができず、メールや資料を通じてのやりとりにとどまってしまった。より効果的な学びの場とするためには、こまめに連絡をとりあい、授業のねらいや流れ等について共有する必要性は高いと考える。